

会 議 風 景

第2回技術研究委員会 屋根・外装・雨樋・ 技術研修会を行う



愛知県板金工業組合
発行 広報委員会
名古屋市中区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

愛知県板金技術研究委員会
(高柳委員長) では十月二十一日午前十一時より松下電工名古屋外装建材営業所九階の会議室で松下電工の専門技術者二名の講師と委員九名の出席で屋根、外壁、雨樋の技術的な事を勉強した。

本来、私たちは板金業ではプロであるはずであるが、日頃ごく普通に板金作業をしていると、とすれば忘れがちな事を勉強した。

講義に先立ち有須田外装一課長から次のように挨拶があった。東海地方の新築戸数は約三十％ダウンしている。また空家率も十・十三％となっている。住宅は今後どんどん減少してくるであろう。そのようなことから最近ハウスメーカーもハウスリフォームに力を入れてきている。特に家の外観には全体の二十五％をかけてリフォームしている様でリフォーム会社も増えている。十年後には十兆円産業とも言われている松下電工ではコンピュータを使いキヤドで完成写真を作り施主様に見てもらって提案することで受注するシステムを導入している。有料であるが板金店さんのお役に立つと思うと語られた。最初の講義は松下電工外装マネージャーの白岩氏が屋根について講義。セキスイでは

屋根診断士というのが松下電工ではマイスターという。共にメーカーが出している資格がある。ナショナル屋根瓦は軒高九層最高高さ十三層までは標準工法で施工してもよい。強風工法は脳天ビス留め工法でパッキン付きタッピングビスを補強部位に留める。

下地についてはコンパネはJAS A一類十二ミ以上五プライ層スカイモル、パライトモルでは四十ミ、耐火野地板は硬質木片セメント板十八ミ以上でセンチュリーボード、ゴールデンモエンWを指定している。

屋根下地の不陸は三ミ以内にする。積雪地域での施工は「すがもれ」、つらら、氷魂による折損がおきるので軒先部より六十五ミひかえて屋根瓦を施工する事。など屋根の講義を十二時三十分まで受けた午後の部が終わった。

午後には外壁材から勉強した松下電工では六月にアルミサイディング春一番を発売したのが今回の研修では窓業サイディングについての勉強であった。窓業系サイディングの厚物はほとんどの商品が準耐火構造に適合できる。また水ぬれ寸法変化率が〇・一五％ある。鉄骨建物は地上高十三層以内とし一・六ミ以上の厚さの胴縁を使用する。ツーバイフォーの建物などへの直張は結露をおこすので通気工法で施工しなければならない。下地の不

陸は屋根と同じく三ミ以内でないといけない。

外壁の三大クレームは、シーリングが一番多い。三面接着をさせ、切断面には絶対にプライマーを塗布してからシーリングをすること。プライマーが塗ってない目地は必ず切れる。二番目が、氷害クレームと割れクレーム。

三番目が縁端クレームでこれは板端部より二五・三〇ミ入った所に留めるようにする。休憩後は雨樋事業部の畑氏が講師で雨樋について講義があった。ナショナル雨樋アイアンはスチールが芯に入っているので耐熱性に優れ熱伸縮がプラスチックに比べて1/4と少なく優れている。

また高耐候性特殊樹脂を被覆しているため色落ちしない。部品と本体の色違いをなくし二十年間色落ちしない耐候性を向上させた商品もある。

雨樋のサイズの決め方は降雨強度や屋根の投影面積を基準にして落ち口一カ所を決め軒樋排水量と堅樋排水量を決める。これは一覽表があるのでもこの表を読めばサイズを決めることが出来る。受け金物は金属製の物よりプラスチック製(ポリカーボネイト製)の方が強度があり積雪地でも六〇〇ピッチでいけるが、より強くする必要があるときは受けピッチを狭くすればよい。海岸線より一キロ以内は強風地域とする。以上、屋根、壁

樋の三項目の研修を終わり、最後に有須田氏は「今後生き残って行くには、板金店も昔はブリキやといわれ、今は板金店であるが、今後は外装工事店と店名も変え、イメージアップしてリフォームを積極的に進める事ではないか」と締めくくられ、午後五時二十分散会した。

新年懇親会のご案内

平成十年の新年懇親会は名古屋板金連合会の担当で開催されます。

多数ご参加をして下さいませようお願いします。

◆開催日時 平成十年一月二十三日(金) 受付開始午後二時・開宴 午後三時

◆場所 「名古屋クラウンホテル」 名古屋市中区栄一丁目八番三十三号

TEL〇五二二二二一六六三三 FAX〇五二二二二一四四二二

◆会 費 一、一〇〇円

◆申込方法

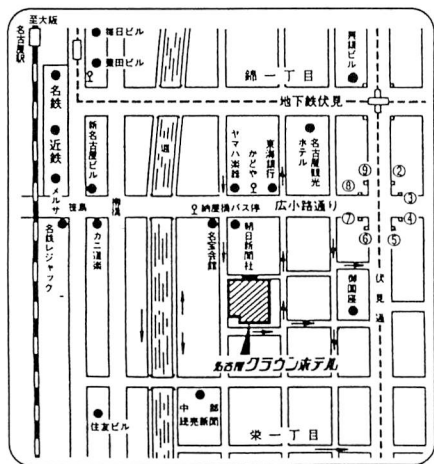
◆申込先 支部長まで会費を添えて申し込み下さい。 申込締切 平成十年一月十日(土)

◆交通のご案内

★地下鉄(東山線・鶴舞線) 伏見駅下車(七番出口より) 徒歩五分

★タクシー 名古屋駅から五分

ご 案 内



計
報

愛知県板・第三代理事長

日比野定雄氏 逝く

県板三代目理事長・日比野定雄氏が十月十二日八十四才の天寿を全う、逝去された。

十月十三日午後六時より通夜、十四日十二時から告別式が北区若葉通りの「愛昇殿」に於いて、喪主の日比野見也氏によりしめやかに執り行なわれた。通夜、告別式には市内はじめ県下各支部より大勢の組合員が焼香におとずれ、故人をしのび冥福を祈った。

告別式には現職時代の日比野体制を陰で支えた樽井元副理事長、清水元専務、平野前理事長、東北支部の長老栗田氏らも参列された。また県板からは村上理事長が所用のため、斎藤・長谷川・高柳の三副理事長と吉田専務が会葬、斎藤副理事長が組合を代表して焼香し偉業を称えた。

故日比野氏は昭和五十三年四月開催の第十三回総代会で当時の柴田理事長病気のため立候補を辞退され、その後投

票により理事長に選任されて以後昭和六十二年三月までの四期九年間にわたり務められた。就任当時、全板連と県板の関係がぎくしゃくしていた事を軌道修正に努力されたり、

西三板金連合青年部 技能向上訓練

西三板金連合青年部（岩崎崇部長）は、技能向上訓練を昨年同様、岡崎技術工学院に於いて実施しました。今回は『板厚〇・八mmの銅板を使用する建水』の製作を行いました。建水とは（茶の湯で）茶碗をすすいだ水を捨てる容器のことです。

参加人数十六名、講師には

近代的な組合事業を推進するための改組と委員会制度の基礎固めなど、氏の偉業は大きく評価され組合史上に輝き続けるであろう。

心から冥福を祈る。(s)

杉浦彰先生・山本和義氏・高柳三郎氏を、お願いしました。訓練の日程は八月二十四日・八月二十八日・八月三十日・九月四日・九月六日・九月十一日・九月十三日・九月十四日の八日間でした。

全員完成しました。

豊田 松井

永遠の旅立

晩秋に最後の一夜が舞い落ちる様に十月十日早朝、恩師金沢政治先生が永眠されました。（享年七十才）

私と先生の出会い、昭和三十七年当時の訓練所でした。その時以来、技能検定試験岡板技能士会役員として三十五年間のお付き合いでした。

ある時は先輩、又ある時は父親の様に親しくさせて頂きました。先生は技能検定実技学科講習の時、受験者のひとりひとりに気を配り、話術そして間の取り方に、私も感動しました。又

先生は毎年の技能検定を大変楽しみにしていましたが、闘病生活のため、指導出来なかった事が歯痒くてとても心残りの様子でした。

先生が他界される二週間前に奥様より電話があり、今年度の技能検定試験の話がしたいとの事で逢いに行きました。私が先生と話をしたのは、その時が最後となりました。

御冥福を
御祈り申し上げます。
岡崎 内山

第十八回

全日本板金工業組合連合会（全板連）
青年部研究会『あすなる研究会』に参加して

平成九年九月二十八日（日）二十九日（月）の両日、愛媛県・松山市の道後温泉「道後プリンスホテル」において第十八回全板連青年部研究会『あすなる研究会』が開催されました。この研究会の目的は、社会的な責任の遂行と適正な収益の確保を同時に達成するための「責任施工制度」についての理解を深め、この「責任施工制度」を推進すること

で雇用改善のための基礎条件をどのように整備するかを研究する。また、メーカーが展示する建築板金用材料、工具等の活用についても検討する、というものです。愛板青年部からは、河田部長（東三）・近藤康則君（東三）・筒井和彦君（西尾）・岩崎崇君（安城）・西川喜久男君（中川港）・松井祐治君（豊田）の六名が出席しました。

野溝年成全板連青年部部長の挨拶で始まった開講式は、日井全板連理事長・北村四国ブロック会長・宮下青年部担当理事・地元、北村忠博愛媛県板理事長の挨拶と続きしました。次にオリエンテーションがあり、今回の研究会は前年と違いグループ分けをした話し合いではなく、第一日は全板連（親組合）役員による

書の動きを見ると一部県板に片寄っていて全国的に見ても数が非常に少ない。要するに「責任施工制度」について良解からないということでした。この後会場を移して楽しい懇親会があり第一日目の夜はふけて行きました。

二日目は全板連、田木久専務理事による保証書発行の流れ・手続きについての説明及び質疑応答から始まりました。この中でいままでに一回も保険金が支払われた事が無いという説明がありました。

続いて、全体討議に移り、前日各ブロックで話し合った内容について全板連本部役員に質問をし、解答をいただくということでしたが、基本的な事柄に終始したと思われました。

この後の開講式において次年度は大分県別府市にて『あすなる研究会』が開講される旨発表がありました。

全国の若い同業者と話し合いの場が持てるこのような研究会には積極的に参加したいと思えます。尚、この研究会に参加された人数は青年部員一六六名、役員二十名合わせて一八六名との報告がありました。

余談であります研究会終了後にジャンボタクシーにて松山市内の観光をしました。この時の運転手さんは非常に熱心かつ親切でした。

豊田 松井

▼新聞屋シリーズ▲

愛知県亜鉛鉄板問屋会
会員会社紹介

第十三回 株式会社 ちた嘉商店



代表取締役社長
加藤 芳文氏

最近、市街地周辺部や郊外に大型ホームセンターがよく見られるようになった。最初の頃は素人の日用大工用品の店として始まり少しずつ品そろえが増え、売り場面積も四五〇坪から六〇〇坪、八〇〇坪となり現在では資材館を併設して千坪以上の店も出現している。

愛知県だけでも百三十店舗位あると言われている。どの



本社屋

品問屋の中では、そのノウハウは屈指と言われている。今回は、その「ちた嘉商店」の概要を以下に紹介する。

商号 株式会社ちた嘉商店
創業地 愛知県西春日井郡西
批杷島町大野二十八の一
創業者 渡辺嘉助
会社設立 昭和二十七年
本社所在地
西批杷島町大野二十八一
電話 〇五二五〇二二八六
FAX 〇五二五〇二二八七

代表取締役社長 加藤芳文
昭和二十四年八月二十七日生

資本金 千二百八十万円

従業員

男子 十名

女子 四名

合計 十四名

営業品目 カラー亜鉛鉄板及
びその加工品(屋根材

壁材) 塩ビ雨樋、波板

パイプ、釘、針金等線

材製品

営業範囲 愛知、岐阜、三重、
静岡四県下の板金店、

金物店、ホームセンタ

社長のモットー

大企業は恩とか義理で

は企業が成り立たない。

しかし我々小企業がそ

れをなくしたら、誰も

ついてきてくれない。

大切にしたい。

会社では社長が担当者と共に

年に何回かホームセンタ

業界の中心地である関東地区

やアメリカへ視察に行ってい

る。

合同研修旅行

中村支部・西支部

中村・西支部両組合は十月五日・六日、群馬県伊香保温泉へ旅行をした。中村支部は名古屋第一赤十字病院前に集合した。13名の支部員が乗車して、東名阪清洲インター付近まで移動し、西支部から3名乗り込みました。一宮インターから中央自動車道へ、お昼頃、諏訪湖へ到着、白樺湖にて昼食を取った。白樺の林道は山のペンキ屋さんも大変、と皆が騒いだ。

少し早く色付く、ススキやナナカマドを見た。白樺・霧ヶ峰・車山……雪のないゲレンデも、すばらしい眺めであった。

横川サービスエリア休憩、ここは明日の昼食場所だ。

先月開通したばかりの上越長野新幹線・高崎駅も見ることでできた。そして、しばらく車を走らせ、今日の宿泊場所ホテル古久屋に着いた。

夜の宴も予想以上に盛り上がった。二次会は、全員でナイトサロン「花錦」の貸切りとなり、五十インチのカラオケを楽しんだ。二日目は高崎百衣大観音を参拝、胎内を見学。七十メートルもあるコンクリートの観音様の中を階段で胸近くまで登った。又、高崎で有名な物に、達磨があるそうです。お昼にはJRの横川「峠の釜飯」を食べた。二日間事故がなく、楽しく無事、名古屋までお世話くださった中支部の杉浦幹事さん、本当にありがとございました。西支部の谷口さん、中村君お疲れ様でした。

西支部 鈴木



参加者一同

集団検診

西尾支部

西尾板金組合は、西尾保健センターで九月二十四日、二十五日に集団検診をしました。二十四日は一般組合員と家族、二十五日は従業員と、振り分けています。四十三名参加し

ました。毎年行っています。厚生委員の稲吉さんは、組合員に、自分の健康状態の、その移り変わりを含めて知っておく為に、毎年の検診をする様に、繰り返し繰り返し力説しておられます。

問診・検尿・採血・血圧・眼底検査・視力検査・胃のレントゲン・肺のレントゲン・肺活量・心電図を調べました。若い人は健康なのが当り前ですけれど、中年以降になると検査結果がだんだん悪くなる様です。検診はいつも午前中に終わります。検診を受けるには辛いところがあります。

検診の前日、PM十時から、酒・タバコ・飲食・激しい運動は禁止です。バリウムを飲むと、皆さん一日中お腹がつかしいとこぼします。つい目覚めの一服をしてしまいがちになります。

西尾 大橋



肺活量の検査

東三支部 研修会

十一月十九日、豊橋総合卸センター組合会館で、組合員五十余名の出席にて行われた。

松下電工は春一番、若井産業の偏芯プラグ、トステムもD&Nサイディングの説明が行われ、組合員が熱心に聞き入っていた。松下電工、トステムは同じ金属サイディングなので、やりにくい面があったと思うが、平松支部長の意図する所、先の見えない時代に、我々の生きる道はこれしかないと言っ、心配りがあったのではない。

窯業系の屋根材、壁材はデザイン、防火と優れているが、もっといいのは、経験がそれほどいらぬ。あえて我々が金属にこだわるのは、我々でなければできないこと、雨漏りを防げるのも、技術保証出来るのも、この業界しかない、保証書付きを前面に出すは……

松下電工、若井産業、トステムの各社に短時間での説明に苦勞された様子、お礼申し上げます。役員、組合員の皆様、ご苦勞様でした。

東三 吉田

津島支部親睦旅行

十月十二日から十四日まで二泊三日、佐渡新潟へ、十四名でバス貸切りという少々贅沢な旅行になりました。

二泊三日とはいふ初日に佐渡まで渡るは少々ハードな日程で、バスに乗り込んだとたんアルコール類が手渡され、高速に乗ってからはトイレ休憩が何度も必要となり、直江津港のカーフェリーの時間に間にあうかどうか、バスのドライバーやガイドさんには迷惑をおかけしました。また当日は風が強く、フェリーに乗り込んでからも揺れが激しく、酔いとの二時間半の闘いでした。

佐渡の小木港に着くと「たらい舟」を体験し、各人が舵を取らせてもらったのですが、誰一人、上手く漕ぐことができなかったようです。たらい舟を終える頃には日も暮れ、ホテルへ向う途中の佐渡の海岸沿いの雄大な景色を見ながら、無事佐渡に渡れた安堵感を各々感じていた事でしょう。その日の宿は、大人しめの宴会で一日を終えました。

翌十三日は、国定公園に指定されている、尖閣湾の豪快な景色を観て、その後、江戸時代の金山を再現した洞穴を

見学し、大佐渡スカイラインで佐渡を見下しながら峠を越え、歴史伝説館では、超ハイテクロボット等による佐渡の歴史を紹介され、酒蔵見学、利き酒体験をし、熱心に酒の話を聞き入る方々もおられました。その後、両津港へ向うのですが、時間が余ったのでガイドさんの配慮で真野御殿と本間家能舞台に立ち寄り、ツアーとは一味違った体験をしました。

そして、一時間半の長いカーフェリーを乗り越え、無事新潟に渡り、この旅のメインイベントである、美人所の月岡温泉での大宴会が待っていたのですが、日も暮れ雨も降り出しますが、新潟の町もラッシュの最中で、宴会の時間に間にあうかどうか心配だった事でしょう。ホテルに着くと、すぐチェックインをすませ、風呂も入らず浴衣に着がえ宴会場へ入りました。宴会場では、三名のコンパニオンが待っており、二時間の宴会も終り、その後ほとんどの方が二次会へ行き、夜中まで盛り上がっていたようです。

翌十四日は、前夜の宴会の疲れが出たのか、バスの中は気持ち静かだった様でした。

そして、白鳥の渡りで有名な、瓢湖を訪れたのですが、前夜宴会で盛り上がり過ぎている頃に、今年初めて白鳥が渡って来たらしく、タイミングのよさに何か得をした気分でした。その後、米山で北陸道を一時降り、昼食をとり、また予定外に、田中角栄氏の生家を訪れたのですが、田中氏の影響が大きいらしく、高速を下りれば5分程のひっそりとした所で、門の外から拝めるだけですが、別の観光の方々もみえており、庭には、銅像も建てられていました。こうして無事二泊三日の旅も終え、帰路に着きました。津島 猪飼

10月各支部の動き

名古屋板金連合会

3・4・5日 尾張名古屋職人展参加

昭和支部

8日 支部定例会

中村支部

西支部

5・6日 二支部合同研修旅行 伊香保温泉

熱田南支部

18日 支部定例会

25日 青年部会合

江南支部

15日 支部役員会

津島支部

5日 支部定例会

12・13・14日 親睦旅行

春日井支部 佐渡方面
8日 定例会 13名
12日 第3回マツタケ狩り 16名
29日 岐阜八百津 11名
24日 支部役員会 4名
西三板金連合会
24日 監査会及び役員会

岡崎支部
11日 支部役員会 23日
支部名簿配布
スチールハウスについて説明

碧南支部

15日 青年部定例会

29日 青年部積算勉強会

刈谷支部

13日 第2会合

県板共済制度の推進
コーキング共同購入
ボーリング大会等について

豊田支部

11日 第7回役員・班長会
全板ノート説明

西尾支部

16日 支部役員会

知立支部

15日 支部定例会

知多支部

21日 懇親旅行

東三支部

3日 定例会

15日 役員会

16日 青年部研修会

19日 支部研修会

24日 役員会

編集後記

例年に比べて降水量が少ない穏やかな晴天が続いた紅葉の秋も、いつしか雪の便りを聞く頃となった。愛知県板も村上理事長新体制が発足して半年余り、再編成した各委員会も積極的に活動を展開している。そこで組合事業を陰で支えているのが事務局スタッフ三人。吉田専務(事務局長)は着任して一年半、組合機構や事務処理、外部関係団体などしっかりと把握して事務局長の風格が出て来た。自前のパソコンを駆使して庶務一般を処理する仕事ぶりは、元県職の技術屋だから、堅実であると共に、手抜きのない前向きな取組に信頼も増す。

そして、この人が就任してから事務局の雰囲気がよく明るくなった。チームワークと何よりも人柄なのだろう。岐阜大農学部出で県の試験場で日本酒の酵母菌を作っていたことから、めっぽう酒類に強い。大声でアッハハと笑う姿はさしずめ〇〇?を想像したくなる愉快な男。奥さんは花屋さんを営む事業主。次回は機会をみて北出局員と今枝局員を紹介する予定。

十月二十九日(木) 晴
三三二号 編集会議
委員 十一名 出席
午後五時半終了(s)